

・六甲山100コース

〈その73〉  
保久良神社

# 保久良山頭に立ちて感あり

春木 一夫〈作家〉



登山道にて筆者

私たち文筆稼業のものは、どうしても座業が主になるので、足腰の具合を試すために、時々保久良神社に登って見る。

家から約三十分。下りのない坂道を、要玄寺川、風呂川に沿って登り切ると、神社に到達する。眼下に茅渟の海が輝やいて広い庭のように見え、紀伊路の連山が視野にかすんで、大阪湾を手中にしたと感じるほど、気宇宏大になる。百坪や二百坪ほどの土地を買い入れ、わが事成れりなどとほざく奴の卑小さが、哀れに思えてくるほどだ。

由来、私は物を持たない主義である。平野祥福寺の坊さんが書いた木札を柱にぶら下げているが、それには「無一物」と記されている。「無一物」が木札一枚でも持っているのは論理的には矛盾だが、それくらいの物質的所

金・宝石・土地・書画骨董、何もない。何もないという、と嘲笑されるので、

「ええ年をさらして」

と嘲笑されるので、

「金は日本銀行に預け、宝石や書画骨董は美術館に預けてある。保管や盗難に気をつかわずにすみ、必要な時には見に行けるからだ。六甲山もおれの土地だが、登りたい人には、どうぞご自由にといつている」  
そう答えることにしている。

「灘の一つ火」と呼ばれる神社前の灯ろうのそばに腰かけ、この付近一帯がおれの土地だと思えば、それでよいではないか。どうせ不動産なんて、持って歩けるものじやなしと、一人でうそぶいている。

紀伊路の山並みを見ながら、今年はその辺に何回ぐらい行ったかを数えて見る。高野山に二回、紀三井寺・那智にそれぞれ一回ぐらいかな。紀伊風土記の丘は……。

おっとっと、ありやもう去年のことだ、などと思いつく。高野山へは、十月にまた行かねばならない。しかも、今度は一泊だし、それに粉河寺へも行かなければならない。

高野山といえば、「高野の仇討」を想起する。播州赤穂で起きた事件の結末を高野山でつげるわけだ。日本最後の仇討ともいえるべきもので、赤穂の事件らしく、やはり集団闘争になっている。それに、仇討本懐の時点で明治四年になっていたため、新律綱領の適用を受け、禁錮刑に処せられているのは、時流の変化とはいえ、誠に気



保久良神社

の毒である。

粉河寺へ行くのも久し振りだ。戦犯で処刑された友人と二人で訪れたのも、すでに三十有余年の昔となる。何故彼はMPに捕えられ、異国の地で死刑に処せられねばならなかったのか。国の命じるまま、忠実な軍人として責務を遂行した男が、敗戦後はまた国の命令で殺される。彼は職業軍人ではなく、現役で入隊した幹部候補生だったのに……。高野の仇討と考え合わせても、国家の理不尽さに腹立たしくなる。日本国家なんて糞くらえだ。これからは、日本国家と日本社会を識別して、社会のためになん張ろうと決意する。

それにしても、おれが今いる処は、何故ムコの地というのだろうか、という疑問がわいてくる。

普通の人は誰でもいうことだが、

「六甲がムコで、神功皇后が六つの甲を埋めはったからでっせ」

いかにも物知り顔に教えてくれる。

これが大間違い。甲は甲冑の甲でヨロイ、カブトなら六甲山と書かねばならない。現に頼山陽は西宮の甲山を冑山と書き直しているくらいだ。

それじゃムコとは何か。吉田茂樹氏は、

「牟古首という渡来人の任地であり、伯耆の国に武庫郡があつて、人名の移動も考えられます」

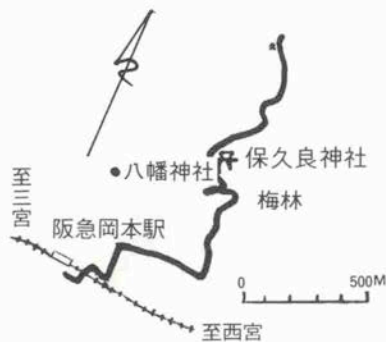
と述べているが、説得力が弱い。

それよりも、都の向うにあるという説の方がわかり易い。賀茂真淵は、

「此地海面へさし出たる地にて、難波より向はる故に、『向』と云ふか」

と推察しているが、これは面白い。

何事でもそうだが、ことに地名・人名など、それほど深刻でないと、真実がありそうである。私の名前でもそうだ。一をカズと深刻ぶって呼ぶ人が多いので、やむなくカズオにしているが、本当はイチオである。ただなら誰でも一と呼んでくれるのと思うのだが、社会通念というものは、げに恐ろしきものである。勝手にしやがれといったのだが、そこは妥協。カズオをペンネームにしている。窮状お察し下された。



・六甲山100コース

〈その74〉  
再度山登山口―錨山―市章山―二本松林道―狸々池―大師道―再度筋

# さまよえる風景

高木 敏克〈作家〉



遊歩道として整備された二本松林道にて

みを透かして白々しい光の群が射し込んでくる。谷底には追谷墓地の墓石がびっしりと群がっている。その墓地には数日前、花束をかかえてでかけ、少しばかり生前の祖母の表情を思いだし、谷底から空を見上げて煙草をふかして一服墓前にもそなえたところだった。めざすネオン仕掛けはその真上あたりにあるらしい。息を切らせてようやく辿り着いたそのあたりには、鉄塔と金網が見えるばかり。しかたなく振り向くと、シルキーな空気のベールに包まれて屋下がりりのぽかんとした港町が視界いっぱいに拡がっていた。

そこからさらにドライブウェイに反目しながら、昔からの山道を潜り抜け、時々アベックの白々しい視線を浴びた。森の不気味な静寂の中では白いもの、たとえば墓石や紙屑、そしてまたアベックがのぞかせるパンテイーなどが、大自然に圧殺されそうなほどの不安を鎮めてくれる。

だが、この奇妙な感覚は何だろう。始めて歩く山道だと思っていれば、すでにいつか見たことのある情景ばかりが現われてくるみたいだ。少年の頃、ぼくは父に連れられてこの道を歩いたのだろうか。山の中で、しだいに時間感覚を喪失し、不定形な緑の空間の中を漂いながら、時々木立ちの切れ間に港の風景を見つけては自分の位置を知る。

二本松林道に入るあたりからは海も見えなくなり、ぼくはすべての風景を見失なっている。森の中には風景は

横たわる女の脇腹の生毛を軽く剃りおとして、そこに真赤に焼けた烙印をおしあてる。夜になればその紋章がひりひり燃えあがるとなると、それは大したスペクタクルである。女の名前は六甲山、闇に浮かぶ鮮かな御紋章は神戸市章と並んで錨のマーク。「さすがヤクザなマドロスの町、山にまでボバイの入れ墨が彫ってある」そう言ったのはこの夏やってきた友人、良識派のバリジャンだった。

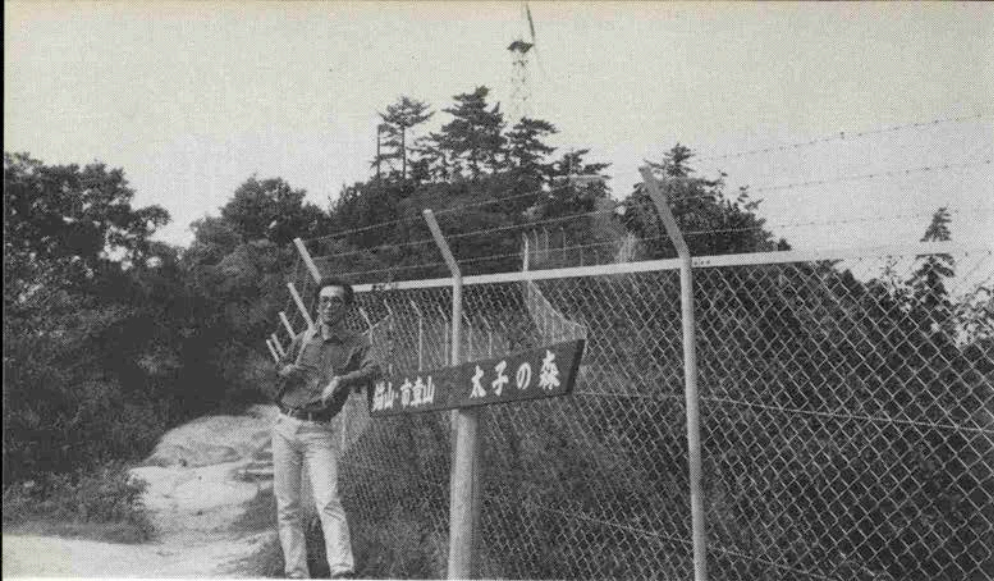
その山肌のケロイド症状を見るために、彼岸の中日、再度山ドライブウェイの脇道をよじ登った。

歩かなければ人は山には入れないみたいだ。空をさえる緑の影に包まれてこそ人は山と関係することができ。したがって、山の緑をきり裂いてできたドライブウェイの上では、人は車で山をただ単に登るだけなのである。尾根伝いに登ってゆくと、雑木林の黒々とした足並



ない。山が人の前で風景でありうるためには距離というものが必要であるが、緑に紛れて山の中にいるぼくは、山そのものであり、風景の背後に存在しているみたいだ。風景ばかりではなく、時間の流れからもはずれてしまい、少年時代の記憶の中を歩いているのかもしれない。

六甲の森はぼくの人生の時の歩みとは無関係に存在し時々ぼくを引っぱり込んで、少年の頃歩いた道の続きを歩かせる。二本松林道でぼくは西洋ダングリを拾い、



山崎山にて筆者

つぎにメタセコイヤを捜しまわる。まるで少年時代の残業であるが、今回もまたメタセコイヤはみつからない。あきらめて狸ヶ池に至る。

沼はどんよりとして動かない。水を溜めているというよりはむしろ時間をためこんで、濁った水面が登山者の足をひきとめている。少年時代の忘れ物がひとつこの沼の底に沈んでいるように思えて、ぼくはしばらく佇んでみる。何をなくしたのかさえ思い出せない空虚感こそが、実は、少年期と現在の自分の間に横たわる時間というもののだと思う。

空虚が空腹に変わり、ここから真すぐ街へ向けて下山することに決める。

大師道と呼び親しまれている登山道に沿って、狸ヶ池の貯水も下ってゆく。昔、花岡が村であったころの用水路がこの小川だ。

時間感覚も方向感覚も溶かしてしまふ六甲の森の魔術からようやく解き放たれて、再び街の風景に出会う寸前、ぼくはあっと驚いて足をすくませる。谷底の小川の中にもう一人の自分があるではないか。川底をじやぶじやぶと裸足で歩きながら、少年が大きな沢ガニをつかまえている。あの時と何も変わらない。大きなクリの木の下で、ぼくはあの時黒い沢ガニを三匹つかまえた。

ぼくは少年に声をかけてみた。少年が上を見上げて、ぼくが三十四才の男であることを教えてくれた。



●神戸を福祉の町に〈95〉

# 神戸いのちの電話

## スタート

橋本 明(社団法人「家庭養護促進協会」事務局長)

今年の六月二十日に西神戸YMCA(長田区水笠通一丁目の一の三)内に、日本で十一番めの「神戸いのちの電話」(078)642-3300が発足した。「いのちの電話」といっても何のことかわからない人も多いだろうが、これは、さまざまな心の悩みをもつ人の相談に電話で応じる活動である。

諸外国ではすでに二十年以上も前から始められ、イギリスでは一九五三年に「ザ・サマリタンズ(よき隣人)」とよばれる組織がロンドンに設立されている。オーストラリアではライフ・ライン(いのちの綱)、ドイツではテレフォン・ゼールゾルゲ(牧会電話)などとも呼ばれ、アメリカでは二百以上の都市で、自殺予防のための電話による相談活動が続けられている。

この他、フランス、台湾、スウェーデン、ポーランド、オランダ、南アフリカ、香港、スイス、韓国、東欧諸国



を含む四〇カ国にも広がり、国際電話救急連盟(本部ジュネーブ)が組織されている。

日本では一九七一年十月に「東京いのちの電話」が設立され、一年間に三二、〇〇〇件の電話相談を受けており、その後次々と左記の都市に設けられてきた。

東京いのちの電話	(03) 264-4343
関西いのちの電話	(06) 309-1121
沖縄いのちの電話	(0988) 68-8016
北九州いのちの電話	(093) 581-4343
北海道いのちの電話	(011) 231-4343
島根いのちの電話	(0852) 26-7575
奈良いのちの電話	(0742) 351-1000
横浜いのちの電話	(045) 323-2112
栃木いのちの電話	(0286) 35-7830
旭川いのちの電話	(0166) 23-4343



神戸いのちの電話 (078) 642-3300  
さらに、

京都いのちの電話 (075) 255-4343  
が来春の開設をめざして準備中である。

また、外国人専用のいのちの電話として、

TOKYO ENGLISH LIFE LINE

(03) 264-4347

がある。そして四年前に全国的な相互連絡と協力のために「日本いのちの電話連盟」が結成されている。

さて、発足して三カ月経った九月下旬に西神戸YMC Aにある「神戸いのちの電話」の事務所を訪れてみた。

この三カ月間は日曜、祭日を除く毎日、午前十一時半から午後六時半まで、ボランティアが二人ずつ二本の電話で相談に応じている。三カ月間に約九五〇件の相談を受けたが、もう一本の留守番電話にはその四倍もの受信が記録されており、全部あわせれば五〇〇〇件ほどの電話がかかってきたことになる。



相談を受けるボランティア

一回四時間で二交替という今までの受付態勢では、一日に二〇件の相談を受けるのが限度だったが、九月に電話相談員第二期生の養成が終り、十月からは午前八時から午後六時半までと、受付時間をのばし、九〇名のボランティアが相談に応じることになっている。

ところで、相談の内容は、人生、家族、夫婦、男女、人間関係、医療、セックス、法律経済、教育、政治社会情報、など多岐多様にわたっており、かけてくる人の年齢も小学生から老人まであらゆる年齢層にわたっている。最年少は六才の小学校一年生。「友だちができない、いじめられる、親がこわい」という相談が六才児から九件あり、すべて女の子ばかり。最高齢者は八十七才の老人男性。配偶者を亡くした淋しさを電話で訴えてきた。

夏休みには高校生や大学生からのセックスについての相談が急増した。なかでも母子相姦、つまり母親と息子との肉体関係についての悩みも多く、異常な性のゆがみに相談員たちもショックをうけたという。

現在はまだ面接相談はやっていないので、電話だけの応対では不十分な場合、また生命の危険が予知されるような場合は、それぞれのケースに応じて専門機関や精神科医などに紹介し、より望ましい解決をはかるようにしている。「いのちの電話」の役割は、精神的な危機に直面している人たちに援助の手を差し伸べるだけでなく、同じ地域に住む人たちが、他人の苦痛から目をそらすことなく、良き隣人として助け合って生きていく「市民運動」にまで人々の心の輪をひろげていくことにある。ロンドンのいのちの電話活動は二万人ものボランティアによって支えられているという。神戸いのちの電話も、この秋から第四期生の相談員の養成に入っている。多くの人たちが関心を寄せ、いろんな形で支えてほしい。

問い合わせは

神戸いのちの電話センター

〒六五三神戸市長田区水笠通一―一三三  
事務局 TEL (078) 642-4317

# ●兵庫界隈記△VI▽

## 都市計画の充実で 新しい街の魅力を

洋画家

石阪 春生

### ★懐しき思い出に彩られる 戦前の兵庫界隈

私の記憶の中に残っている戦前の兵庫のイメージは明るく、そのくせ古い街の臭いをもった味わいの深い土地であった。特に本町筋はメインストリートとして立派な商家が建ち並んでおり、私の好きな通りだった。

横には西宮内、たてには新開地が交差しており、西

宮内は今でいえば市場とターミナルセンターを備えた活気のある通り、新開地は聚楽館に代表されるアミューズメントセンターとショッピングセンターとして賑わっていた。

この界隈の当時の佇いについては様々な伝説が残っており、竹中郁さんなども詳しく書き残されているが問屋筋など由緒のある名前が残っているように当時として非常に格調高い店舗の集まった繁華街であったと同時に古い文化の町でもあった。



古い兵庫のイメージの残るれんが造の建物（株式会社石川本社）

私が生まれ育ったこの兵庫の町も疎開をはさんで昭和25年に戻ってみると、戦災によってほとんど原型をと

どめぬようにまで破壊されていた。帰ってきた当時はもう少し復興するだろうと子供心に期待していたが、かつての兵庫の繁栄は戻らず衰弱してきたのは非常に残念に思っている。

★ハイウェイで分断された兵庫の北と南

現在の兵庫の町が活力をなくしてダウンタウン化しているのは、足の便の悪さにも原因がある。私の住んでいる永沢町のあたりはまだ高速鉄道が走っていない便利だが、ハイウェイの南側は地下鉄も市電もなく、交通機関としてはバスしかない。街の中央の一番幅の広い所に鉄道がない。

それと同時にハイウェイが街を北と南に分断している。北側はまだ活気があるが、南側にいくと街の顔に疲労感が漂っている。もう少し南側の海岸線をハイウェイが走っていれば、またちがった形で表われていたように思われる。海側が工場や倉庫でフタをされていて人間が寄りつかなくなっている。神戸に住む人が「神戸にもこんな所があったのか」と感想をもらすほどだ。そんな時には「神戸はここからできたんやで」と言っているが、少々シヨ



バラエティ豊かな味づくりで  
おいしいはずの楽しい食卓づくり……

味づくりに生きる **かねてつ**



安政2年創業  
日持ちのする  
豆納  
甘め 豆納  
かん女屋

本社 神戸福原口 ☎(575) 5536  
直売店 神戸さんかスイーツタウン  
各百貨店・大阪梅田三番街・大阪・羽田  
国際空港・阪急百貨店錦葉街・新大阪ス  
テーションストア

### 慶びの家具



神戸市兵庫区塚本通2丁目1番1号  
永沢町交差点 ☎078-575-3120  
東 店 ☎078-576-0054  
毎週金曜日定休日

### お好み焼

**美丁**  
Yoshicho

福原金比羅宮西入ル ☎575-7913  
平日・PM3～PM10:30  
金土日・AM11:30～PM10:30  
水曜日定休日



ックである。

永沢町、会下山、上沢といった町はむしろ新兵庫というべきで、南側の和田岬吉田町あたりが本当の兵庫だった。私の家は元来、南の方で粉屋を営んでいて祖父の代で現在の場所へ移ったのだが、その時分は「石阪さんは野に行つた」などと言われたくらいである。

### ★兵庫をさらにの街に

都市計画による復興を結局のところ、玄関口から遠くなって街づくりが遅れているのだが、神戸の北部やポートアイランドの開発の華やかさをみるにつけ兵庫ももっと力を入れて再開発されるべきだと思う。かつての新開地・福原の幻想にとらわれるのでなく

兵庫は住宅街へと転換していくことが先決だというのが私の考えだ。商業回復は一挙にはできない。

行政と市民が一致協力して都市計画の力で新しい街づくりを進めるべきだ。人が多く集まることが活力を生み出す筈だし、住居地として考えると気候・風土とも昔の人が開発して住みついただけに素晴らしいものがある。神戸は山と海だけの狭い土地のようだが、和田岬のあたりから見ると山が遠くて神戸も広いと感じさせられる。平地として面積がこれだけあるのは兵庫くらいだし、治水・地盤とも申し分ない。かつての大洪水の折にも溝の水が少し濁ったくらいで、親たちも

このへんは絶対に水には漬からないと自信を持っていた。そういう話を伝え聞いても、いかに住みよい場所かがよくわかる。

山を切り開くのに比べて古い街をいじるのは難しいことであろうが、それをあえて作りかえない限り自然回復はありえない。海岸ぞいに地下鉄、高層化した集団住宅、広場などを建設して新しい兵庫のイメージをつくりあげる必要がある。

今の兵庫は戦後の焼跡に入ってきた人たちでできた町だが、30年たつてようやくコミュニケーションができて街になってきたといえる。その意味では、町の将来はこれからではないだろうか。△文責／編集部▽



### 北野商店

●世界の洋酒  
楽しめる  
世界ワインが



高速新開地駅を降りて北側へ3分ほど歩くと、左手に5階建の瀟洒なビ

ル。これが北野商店の本店である。北区の山の街店、須磨区の名谷店では一般家庭向の小売が主だが、本店ではホテル、飲食店などの業務用卸を中心に活発な営業を行なっている。昭和2年創業だが、現在のビルになったのは47年。当時は珍しい輸入洋酒のディスプレイ販売をいち早く手がけている。

北野正博専務は「ただ

酒を売るだけでなく楽しんで飲んでいただくためのノウハウを提供したい」と強調。食事のフルコース同様、アルコールにも食前、食後、デザートとそれぞれ多彩な楽しみ方があり、その人なりの美味しい飲み方を開発してほしいと語る。

年に4、5回は新着ワインの試飲会なども催され、ワインの品ぞろえにも力を入れている。



結婚式は

神戸 平安閣

☎(078) 351-3390  
高速新開地駅東へ200米



カステラは1番・電話は2番(575局)

文明堂のカステラ

文明堂神戸店



ポートビア81「ジャイアント」

パンダ饅頭

六甲峰

株式 兵庫 するが屋

サンこうべ店・湊川店  
本店/市バス柳原駅前 ☎576-0790



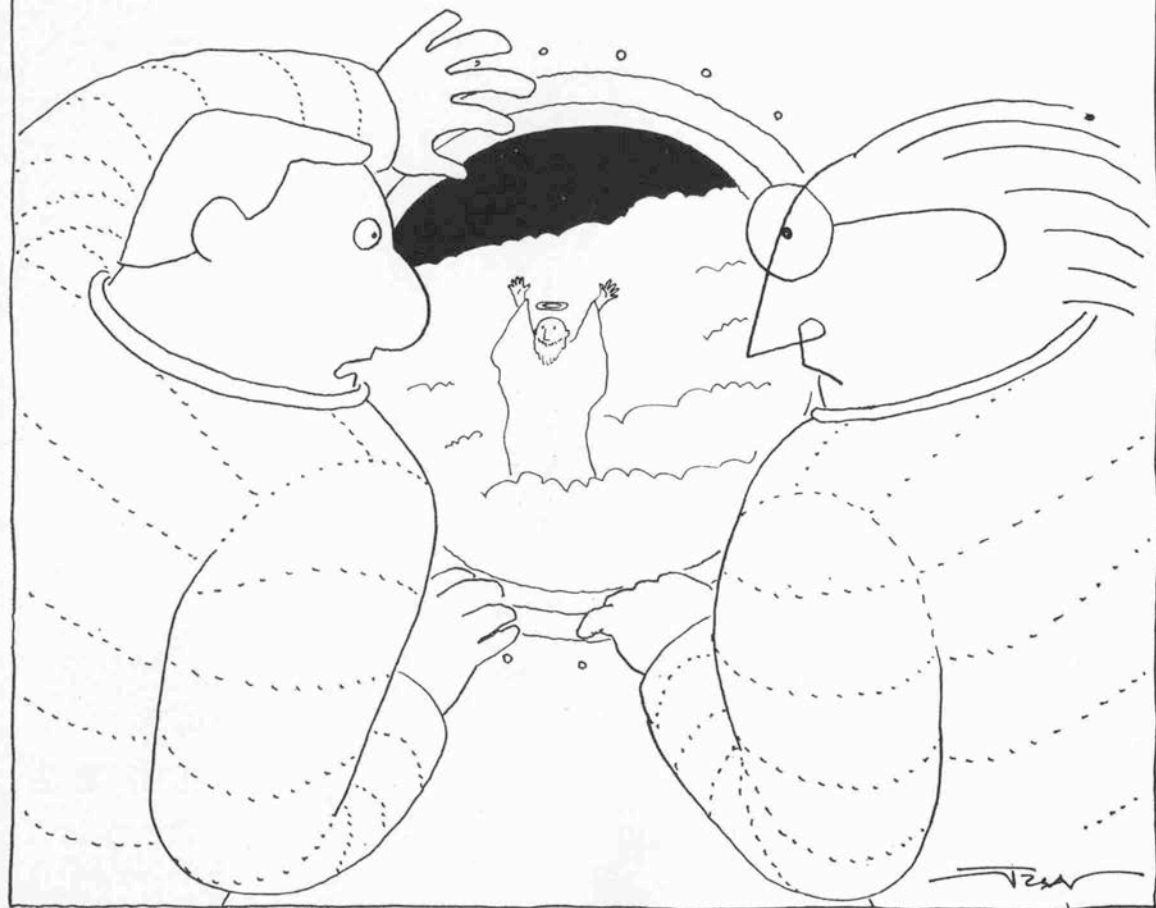
世界の洋酒  
世界のワインが  
楽しめる

株式 北野商店

本店 兵庫区中道通1丁目4-31  
TEL (078) 577-1181~3  
山の街店 TEL (078) 581-2377  
名谷店 TEL (078) 791-7171~2



—どうも私には ここが土星だとは  
おもえないのですが.....





— たしか火星には二度めでしたね 教授



# KOBE MODERN CULTURE



## 音楽

### ★今年は三日間

#### ワイド・ワイド・ジャズ

12月18日(金) 6時半〜9時  
12月19日(土) 5時〜9時  
12月20日(日) 2時〜7時  
神戸文化ホール  
00円 B 2500円 C 2000円  
19/20日/A・3800円 B・3000円 C・2500円

#### 全国各地で開かれるジャズ・フェスティバルのなかでも内容豊かなものとして

好評のある神戸ジャズ・フェスティバル「WIDE WIDE JAZZ」は、今年で第9回を迎え、従来のスケジュールに前夜祭を加えて三日間の公演。しかも各日程とも特徴をもたせたプログラムで、出演者も豪華多彩な顔ぶれ。例年にも増しての充実さが期待される。



北村英治 アンリ菅野 渡辺貞夫

出演者/18日(前夜祭)スイング&ヴォーカル・ナイト・ヴェディ・ウィルソン、北村英治+スイング・オールスターズ、アンリ菅野、金子晴美、ビッグ・バード(山本剛、岡田勉、渡辺文男) 19日(ハナベサダ・ナイト)渡辺貞夫バンド、向井滋春&モリニング・フライト 20日(ハフ・ナル・スペシャル)ヴェネティ・サン、山田洋輔トリオ、本多俊之&バニング・ウェイブ、富間利之とニユーハード、佐藤未樹 司会・行田よしお(三日間とも)



## 舞踊

### ★世界で唯一の黒人舞踊団

#### ニユーヨーク・ハーレムダンス・シアター来日

11月19日(木) 6時半 神戸文化ホール S・6000円 S・5500円 A・4500円 B・3000円 C・2000円 学生・1500円



「シエラザード」

黒人の舞踊家としてスターになったアーサー・ミッチェルが、黒人指導者マーチン・ルーサー・キング牧師の不慮の死から啓示を受け、1969年に創立した舞踊団で、アメリカ五大バレエ団のひとつ。クラシッ



## 演劇

### ★第2回筒井康隆劇場

#### 初演「三月ウサギ」

11月7日(土) 6時30分 8日(日) 2時 神戸文化ホール 1階席・2300円/2階席・1800円/全席指定席 第1回神戸秋の芸術祭参加作品



筒井 康隆

大好評だった昨年の「12人の浮かれる男」に続く、シリーズ第2弾として公演される。

題名の「三月ウサギ」とは3月の発情期のうさぎとすることから「気違いじみた異常さ」「狂気に満ちたもの」の別表現になっており、何億もの資産を持つ80

歳前後の高円寺静という病身の女性をめぐる血縁者たちによる財産相続の葛藤が鬼才筒井康隆独自の狂気の世界で展開されている。

出演/久米明、福田公子、北村総一郎、島村佳江、劇団「昴」演出/樋口昌弘

#### ★劇団幻実劇場第10回公演

「真夜中のマリア」  
遊版ドラ・マゲラ



「真夜中のマリア」

夢野久作の「ドグラ・マグラ」をモチーフにした幻想的な芝居。

#### 作・演出/岳原遊

出演/速水陽子、若浦宗八、藍川朋子、西崎龍元ほか

#### ★劇団青い森公演

#### 「カレドニア号出帆」

11月14日(土) 2時 西屋ルナホール 大人1500円(前売・1000円) 子供1000円(前売・800円)



「カレドニア号出帆」

こどものためのミュージカル。作／多田徹、演出／ふるかわ照、出演／木友留美子、白木原麻紀、祐樹あい一栗大、森もりこほか

# 「烈婦連」

11月14日(土) 6時 曹屋ルナ大ホール 大人2000円(前売・1500円) 中学生1200円(前売1000円)

平塚らいてうたちをモデルに、明治から大正にかけての「新しい女性」を描く。脚色／柴田宣一、出演／乾奈津子、持留さよ子ほか

## 音楽



★都はるみ  
4日(水) ①2時 ②6時半 神戸国際会館 民音／会員・2800円

★神戸室内合奏団  
4日(水) 6時半 神戸文化ホール 2500円

★高中正義  
5日(木) 6時半 神戸文化大ホール A・2600円 B・2300円

★青屋文響楽団  
7日(土) 6時半 神戸文化大ホール

★阿川泰子  
10日(火) 6時半 神戸国際会館 S・2800円 A・2400円 B・2000円

★因幡晃  
11日(水) 6時半 神戸文化大ホール 民音／会員・2600円

★谷山浩子・春風亭小朝  
20日(金) 6時半 神戸文化大ホール A・2300円 B・2000円

★中田実郎ピアノコンサート  
25日(水) 6時半 神戸文化大ホール



## 古典芸能

### ★第八回五流能

出演者 演目決まる

1月16日(土) ①10時 ②3時 神戸文化大ホール 1階席・4000円 2階席・3000円

能楽には五流儀があるが、全流が一堂に集まれば演能をすることは珍らしい。神戸で毎年1月に五流能を開催していて、今年で8回目を迎える。全国的にみて指折りの催しとして、フアン

★伊藤ルミ・ピアノ・リサイタル  
12月1日(火) 7時 神戸文化大ホール 2000円



## 映画

### ★「ベニスに死す」

12日(水) 13日(金) 6時半 14日(土) 2時 神戸文化大ホール 会員・499円



## 演劇

### ★第2回簡井康隆劇場

7日(土) 6時半 8日(日) 2時 神戸文化大ホール 1F・2300円 2F・1800円  
出演／福田公子、久米明、島村佳江ほか

★国立モスクワ中央人形劇場  
10日(火) 6時半 11日(水) ①2時 ②6時半 神戸国際交流会館 前売・3000円 当日・3800円

★山本安美「夕鶴」  
26日(木) 6時15分 神戸文化大ホール S・4000円 S・

にとつてもうれしい企画。

第一部／能「竹生島」喜多長世、能「雪」金剛殿、狂言「鼻取相撲」善竹忠一郎、能「桑上」観世元正 第二部／能「花月」辰己孝、能「羽衣」金春信高、狂言「居杭」茂山千作、能「船弁慶」観世鏡之丞

## 美術

### ★エンバ美術コンクール

現代美術の発展を願い、創造性のある作家を発見し、顕彰する「第4回ジャパンエンバ美術コンクール」の

3000円 A・2500円 B・2000円

### ★俳優座「神の汚れた手」

26日(木) 27日(金) 6時15分 28日(土) ①2時 ②6時15分 29日(日) 2時 神戸文化大ホール 神戸労働／会員・2300円 一般・2400円 出演／中谷一郎、河内桃子、袋正ほか



## 古典芸能

### ★仮名手楽歌舞伎

12日(木) 6時 13日(金) ①1時 ②6時 神戸文化大ホール S・3000円 A・2000円 B・1000円



## 美術

### ★演習美術展

祥瑞・染付および赤絵 9/15/12/13

### ★香雪美術展

日本の書と時絵 9/19/12/13

### ★西宮市大谷記念美術展

西宮市芸術祭美術展 11/1/11/15

### ★エンバ中国近代美術展

応募要項が決定した。

種目／平面立体を問わず現代的な造形作品(絵画・彫刻・工芸のすべてを含む) 賞金／エンバ賞(大賞)1点300万円 優秀賞4点50万円

審査員／小倉忠夫、河北倫明、木村重信、中原佑介、針生一郎 参加費／1点につき2,000円

応募方法／返信用封筒(23×4cm×12cmに70円切手貼付)を同封の上、搬入受付／京阪神地区、11月22/23日、その他の地区、11月18/19/23日

お問合せ／〒690 芦屋市奥能町12-1「エンバ中国近代美術展」内ジャパン・エンバ美術コンクール事務局 079713810021

### 臨と風展

10/1/12/12

### ★CITY GALLERY

橋本文良版画展 11/14/11/28

### ★ギヤラリー神戸時代

角造り作品展 11/2/11/30

### ★ギヤラリード・ラ・ペ

ロイズガデン美術公募展 10/31/11/7

### ★大沢昌助展

11/15/11/23

### ★長島伸夫猫作品展

12/5/12/13

### ★青屋ギヤラリーりべるて

ガントナー石版画展 11/14/11/21

### ★ギヤラリーあじさい

日本画連盟小品展 11/3/11/8

### ★武本裕達陶展

11/10/11/29

### ★白石弘子染色展

11/24/11/29

### ★三越ギヤラリー(神戸ポर्टビ

アホテル1F)

### ★女性の美の追求

菅沼金六油絵展 10/27/11/9

### ★現代作家日本四季展

11/10/11/23

### ★現代洋画新作展

11/14/12/24

### ★大丸神戸店美術画廊

三輪信雪展 10/29/11/3

山内一生工芸画展 11/5/11/10

京の中古道具市 11/12/11/17

北村西望・富永直樹二人展 11/19/11/24

爽芽会五人展 11/26/12/1